

B-04-1

vegetative state の残存能力に対する音楽療法の効果

木沢記念病院中部療護センター

○奥村由香, 奥村歩, 豊島義哉, 篠田淳

【はじめに】vegetative state (VS) と minimally conscious state (MCS) の2つ概念の大きな違いは言語での意思疎通の有無である。そのため、VSはこういった能力が残存しているのか判別しがたい側面がある。今回、こうしたVSの残存能力に対する音楽療法の効果について検討する。【方法】対象は、当センター入院中の頭部外傷後遺症遷延性意識障害患者（広南スコア70~55）で、言語での意思の疎通が困難な23例について音楽療法を行い、当センターで作成した音楽療法評価表（MTS）のI 感覚的反応、II 情緒的反応、III 随意的運動反応、IV 従命反応の4項目の得点の1年間の変化と音楽療法内容について検討する。代表症例については音楽療法時にECD-SPECT検査を行い、BEAT解析、Fine SRT解析により音楽療法時の脳血流量の変化を客観的に把握することを試みる。【結果】VSを脱却した7例では、MCSのII, III, IVが有意差($p < 0.05$)をもって改善した。非脱却例では、Iが有意差をもって改善したが、その他の項目には有意差がなかった。非脱却：症例1) 触覚・聴覚刺激で覚醒が持続→和太鼓の刺激で微笑するようになった。症例2) 音楽聴取で覚醒が持続、上肢に逃避運動(+)→楽器の音出し行為やリズム、メロディの模倣が出現した。BEAT解析、Fine SRT解析では、症例1は右第一次聴覚野、症例2は右上側頭回に10%の脳血流量の増加を認めた。【考察】MCSはVSの残存能力の個人差を反映しているスコアと考えられる。音楽療法は、VSの個々の音楽の認知能力から残存能力を引き出し脳機能の賦活を行っている可能性が示唆された。